

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『認知症予防におすすめ 図書館利用術 フレッシュ脳を保ち方』日外アソシエーツ 結城 俊也／著  
2017.1 015/㊦ 171

リハビリのプロである著者が、図書館をうまく利用して認知症を予防するための方法を詳しく解説します。行きつけの図書館を2～3館つくって、大また・早歩きで10分間×2～3回程度移動する方法や、自分の読みたい本についてフロア案内図を頼りに自力で探す方法など、脳に刺激を与えるためのちょっとした工夫を伝授します。実際に各図書館で開催された「認知症予防講座」の内容も紹介。本を読んだり借りたりするだけではもったいない！この機会に若々しい脳を保つための図書館の賢い利用方法をぜひ習得してください。

『深読み!絵本『せいめいのれきし』』真鍋 真／著  
岩波書店 2017.4 457/マ 174/

絵本『せいめいのれきし』（バージニア・リー・パー-ton／文・絵 いしいももこ／訳 岩波書店）は、1964年に日本語版が出版され、以来長年に渡り愛されてきました。そして2015年、最新の科学的知見を反映した改訂版が日本で刊行されました。この改訂版の監修を行ったのが、本書の著者です。

壮大な時間の流れに沿って、絵本を引用しながら、科学的に地球の「生命の歴史」を紐解いてゆきます。絵本『せいめいのれきし』に掻き立てられた知的好奇心に、存分に応える一冊です。

『あなたの仕事、感情労働ですよ?』花伝社 関谷 大輝／著 2016.11 366.94/㊦ 16Y

職場で、イライラしつつもにっこりと笑顔を作ったことはありませんか?本書は、「仕事の上で感情をコントロールする必要のある」労働＝感情労働について扱った1冊です。肉体を使った時と同様に、感情の抑制による疲労やストレスも心身に影響を及ぼします。

感情労働について知り、自分にあったケアの方法を探っていくことで、ストレスと付き合いつつも長く楽しく働いていくヒントが見つかるかもしれません。

## 児童・児童図書研究

『「スーホの白い馬」の真実』ミンガド・ボラグ／著、風響社、2016.10 J388.22/ミ

50年以上のロングセラーで教科書にも掲載され、日本で広く知られている『スーホの白い馬』（福音館書店）。一般的にモンゴルの民話と解されてきましたが、著者はこれを、複数の民話を元にした創作だと結論付けます。では、この絵本はモンゴルを理解するための仲介者としての価値を失ってしまうのでしょうか?

本書では中国語で書かれた原作「馬頭琴」の成立過程や、背景となったモンゴル文化を紐解きながら、『スーホの白い馬』の価値を再検討しています。また、正しい異文化理解の方法のヒントを与えてくれます。

## 雑誌・新聞

2016年6月に国民投票で決定された英国のEU（欧州連合）離脱や、トランプ米大統領誕生をきっかけに、「ポピュリズム」（大衆迎合主義）という言葉聞く機会が増えました。「ポピュリズム」とはどういうものか、その影響はどんなものか。今後の世界情勢を踏まえた特集・関連記事をご紹介します。

\*特集 ポピュリズムは民主主義を破壊するのか  
『中央公論』2017.5月号 Z/051/C1

\*特集 ポピュリスト大研究  
『Newsweek』2017.3.14日号 Z/051/N11

\*「大衆迎合主義が世界を非道な争いの地にする」  
／グレン カール

『Newsweek』2017.5.2・9合併号 p.35 Z/051/N11

\*「世界中に広がるポピュリズムを解明しよう」  
／水島治郎

『東洋経済』2017.4.8日号 p.66-67 Z/330.5/T4

\*「フランスの右傾化に怯えるドイツ」  
／川口マーン恵美

『Voice』2017.6月号 p.110-117 Z/051/V1

\*「世界の潮ポピュリズムの伸張を止められるか」  
／軍司泰史

『世界』2017.4月号 p.20-24 Z/051/S1

\*「いちからわかる!＝ポピュリズムってどういう政治手法?」『朝日新聞』2017.1.23日2面

## 地域

『「メイド・イン・フクシマ恋愛映画」誕生物語』沼田憲男／著 方丈社 2017 L778.4/N2/1

福島県天栄村を舞台として作成された2017年2月4日公開の映画「恋愛奇譚集」プロジェクトの顛末記です。

福島が日常を取り戻していることを知ってもらおうと、福島の「新しい復興」を模索した著者の思いつきから始まりましたが、これは県政史上初の「県と村の行政が連携して予算を拠出し、若者たちに自由な映画づくりの環境を整えるという試み」でした。機材、人材、予算と次から次へ出る難題に対処していく様子が、映画の魅力とともに描かれています。

『雨ニモマケズ 外国人記者が伝えた東日本大震災』ルーシー・バーミンガム、デヴィッド・マクニール／共著 えにし書房 2016.12 LS/369.31/B8/1

日本をよく知る外国人記者2人による東日本大震災を生き延びた人々のルポルタージュです。

福島県からの証言者は、桜井勝延南相馬市長と相馬市の漁師イチダヨシオさん・大熊町の原発作業員ワタナベカイ（仮名）さんの3人。豊富な知識と丹念な取材が悲しみを丁寧に綴っています。

本書は2012年アメリカで出版され話題となり、今回市民グループ有志の翻訳を元に日本語版として改めて出版されました。